

飛騨高山観光特集

施策動員し、観光復活の足取り確かに

田中 明氏
高山市長



トップ対談

岐阜県の飛騨高山に観光客が戻っている。古い町並や高山陣屋などの観光名所には日本人や外国人旅行者の姿が目立ち、活気を帯びている。高山市の田中明市長と飛騨・高山観光コンベンション協会の堀泰則会長(ひだホテルプラザ)の対談を通して、アフターコロナ禍の飛騨高山観光の課題などを探った。聞き手は論説委員の内井高弘。(2月下旬、市役所で)

堀 泰則氏
飛騨・高山観光コンベンション協会会長



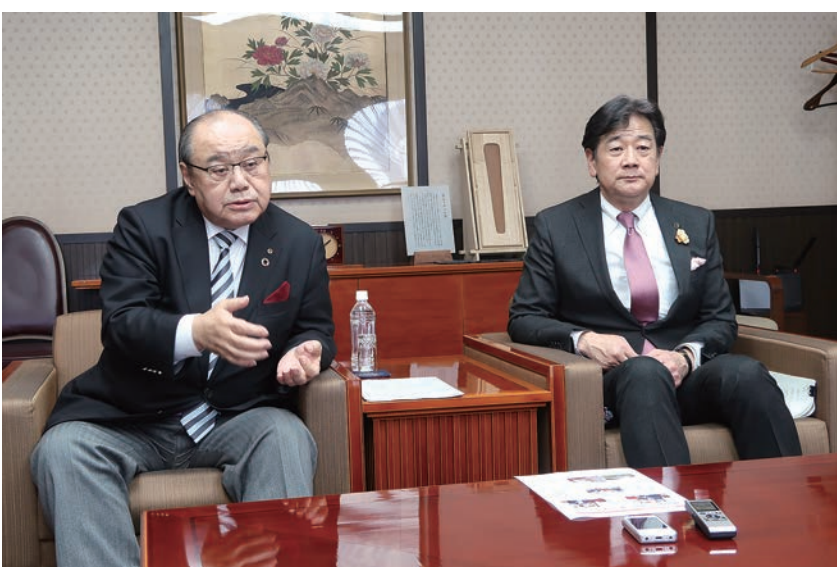
観光客は19年の86%に回復 海外人材を受け入れ 伝統や文化を深掘りし提供

新型コロナウイルス禍も収束して、人の流れも活発になってきました。

田中 2023年の観光入込客数は40万7千人、前年比32%増、宿泊客数は19万8千人で、同増。うち外国人宿泊客は45万2000人、同107%増となっています。コロナ禍前の19年と比べ、観光入込客数は86%、インバウンドは74%の水増しまで回復してきました。

コロナ禍のダメージはありましたが、旅行者が戻っている今の状況をどう受け止めるか、観光関係者、市民にしっかりと付いていると改めて感じました。厳しい環境下でも、民間の方々がしっかりと投資、おもてなしをされ、腹をくくってやってこられた。これは高山の強みだと思います。

堀 いま観光予算はどのくらいですか。
田中 約14億円。総予算は約940億円です。観光は多岐にわたりますが、観光振興費は約10億円です。観光はまさに高山の産業の基盤といえます。



田中 外国人の就労機会をつくらせたい。地元の短大で日本語学校を設立しようという動きもあり、また、北海道東川町に町立東川日本語学校があり、そこをモデルとして、新年度から7人の学生さんが高山で働くようになり、海外の人材を積極的に受け入れ、宿泊をはじめ、いろいろな業種で働けるようにしたいですね。

堀 高山はいま旅館・ホテルの客室は4500ルームほどあり、5千に迫る勢いです。当然人手は不足気味で、どう確保するかに頭を悩ませています。コロナ禍で離職した人たちが戻っていないのが実情です。

滞在型観光都市に 多文化共生社会の実現を 財源確保へ新制度を検討

田中 観光振興費は地域経営に資するもので、地域の課題もこれらで解決できる。観光振興費を地域に還元する仕組みを検討しています。

堀 観光振興費は地域経営に資するもので、地域の課題もこれらで解決できる。観光振興費を地域に還元する仕組みを検討しています。

田中 観光振興費は地域経営に資するもので、地域の課題もこれらで解決できる。観光振興費を地域に還元する仕組みを検討しています。

堀 観光振興費は地域経営に資するもので、地域の課題もこれらで解決できる。観光振興費を地域に還元する仕組みを検討しています。

田中 観光振興費は地域経営に資するもので、地域の課題もこれらで解決できる。観光振興費を地域に還元する仕組みを検討しています。

堀 観光振興費は地域経営に資するもので、地域の課題もこれらで解決できる。観光振興費を地域に還元する仕組みを検討しています。

田中 観光振興費は地域経営に資するもので、地域の課題もこれらで解決できる。観光振興費を地域に還元する仕組みを検討しています。

高山には飛騨高山パークアクト(収容人員4千人)や飛騨・世界生活文化センター(同千人)など大規模施設が数多くあり、MICEの受け入れ態勢も充実しています。

田中 MICEに関しては、残念ながら大学がありません。それに伴ってMICE誘致は正直弱い部分があります。しかし、24年度には日本外務省・観光庁の年次大会が開かれるなど、招致活動は実を結びつつあります。高がもつポテンシャルの大きさと観光素材の豊富さを生かして、MICEの誘致に力を入れていきたいです。

田中 観光振興費は地域経営に資するもので、地域の課題もこれらで解決できる。観光振興費を地域に還元する仕組みを検討しています。

堀 観光振興費は地域経営に資するもので、地域の課題もこれらで解決できる。観光振興費を地域に還元する仕組みを検討しています。



県指定天然記念物の「桜山」

天然記念物があちらこちらに

飛騨高山の春を彩るのが各地にある美しい桜。県指定天然記念物の桜山(桜山町)、国指定天然記念物の臥龍桜(二之宮町)など見応えのある桜が至るところにある。

御母衣湖畔にある桜山はアズマヒガンザクラで、樹齢約500年といわれる。今は湖の湖底に沈んでしまった光輪寺と照蓮寺の境内にあった巨樹で、水没させるのはしむけないとして、現在の場所に移植された。見頃は例年4月下旬から5月上旬で、満開後3日間ほどライトアップされる予定だ。

また、幹の形が龍の臥した姿に似ていることから名付けられたのが臥龍桜。樹齢約1100年、枝張り30m、高さ20m以上に及ぶ日本を代表するエドヒガンザクラの大樹。4月中旬から臥龍公園で「桜まつり」が開催される。



ユネスコ無形文化遺産「高山祭の屋台行事」

完全復活の高山祭、人出予想は18万人

飛騨高山を象徴する行事が「高山祭」。高山祭の屋台行事はユネスコ無形文化遺産であり、その絢爛豪華さが日本三大美祭の一つに数えられている。

高山祭は春の「山王祭」(毎年4月14、15日開催)と秋の「八幡祭」(同10月9、10日開催)の総称。山王祭は城下町の南半分、八幡祭は山王祭の北半分(山王様)の例大祭で、上二町・上三町・上三町が舞台になる。

コロナ禍の影響で2020年は中止、21年は規模を縮小して開催。22年は例年通りを予定していたが、雨のため屋台の曳き揃えや御巡幸、夜祭は中止になった。昨年15日の屋台行事が雨のため変更になったが、2日間の人出は16万8千人となり、コロナ禍前(19年)の18万2千人の9割まで回復した。

今年も屋台曳き揃えやからくり奉納、夜祭、御巡幸などが実施され、観光客は約18万人を見込んでいる。

祭りと桜、飛騨高山は春爛漫

ハイシーズンも出ている。高山にとっても欠かせない観光資源だ。

堀 大きな存在です。現状、受け入れ態勢も十分ではありません。たとえば、飲食店、夜遅くまでやっている店が少なく、夜の観光に配慮できていません。ナイトタイムエコノミーではありませんが、皆さんの協力を得て、何か手を打たないといけないと思います。

田中 インバウンドの対応は手間がかかることです。言葉も違えば商習慣も異なる。食べ物にも気をつけてもらいたいです。高山は外から人を受け入れるというDNAがあります。それを意識して、満足いただけるサービスを提供していきたいです。

田中 抽象的ですが、深い地域性、深い伝統、深い文化など、そういったものを深掘り、高付加価値として提供する。特別な気持ちで旅行をしていただけるよう、官民一体となって取り組まれます。